

高齢者肺炎球菌予防接種説明書【接種前にご一読ください】

対象者：65歳の市民で、過去に23価肺炎球菌ワクチンを接種したことがない人

接種期間：65歳の間（66歳の誕生日の前日まで）

60歳以上65歳未満の市民で心臓・腎臓・呼吸器に身体障がい者手帳1級相当の重い病気のある人及びHIVで免疫機能に重い障がいのある人のうち、過去に肺炎球菌ワクチンを接種したことがない人も対象です。

1 肺炎球菌・肺炎球菌ワクチンについて

肺炎球菌は主に気道の分泌物に含まれる細菌で、唾液などを通じて飛沫感染します。免疫力が下がった時などに発症し、気管支炎や肺炎、敗血症などの重い合併症を引き起こすことがあります。

肺炎球菌には90種類以上の血清型があり、定期接種で使用される「23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン（ニューモバックスNP）」は、そのうちの23種類の血清型を予防接種の対象としたワクチンです。このワクチン接種によって、全ての肺炎を予防できるわけではありません。

このワクチンは、接種から5年間はワクチンの効果が持続するとされています（個人差があります）。なお、定期接種の対象となるのは初回接種のみで、2回目以降の接種については費用助成及び通知はありません。

2 予防接種を受けることができない場合（次のいずれか）

- ・明らかに発熱している（一般的な目安は37.5℃）
- ・重い急性疾患にかかっている
- ・ワクチンの成分に対し、アナフィラキシーなど重度の過敏症の既往歴がある
- ・その他、予防接種を受けることが不相当であると医師が判断した場合

3 接種前に医師と相談が必要な場合（次のいずれか）

- ・心臓病、腎臓病、肝臓病や血液、その他慢性の病気で治療を受けている
- ・今までに予防接種を受けたあと2日以内に、発熱、発疹などのアレルギー反応が出た
- ・今までにけいれんを起こしたことがある
- ・免疫不全と診断されている、または近親者に先天性免疫不全症の人がいる
- ・このワクチンの成分に対してアレルギーを起こすおそれがある人

4 ワクチンの副反応

- ・接種した部位…痛む、熱を持つ、腫れる、赤くなるなど
 - ・全身症状…倦怠感、違和感、悪寒、発熱、筋肉痛、頭痛など
 - ・稀に報告される重い副反応…アナフィラキシー様反応、血小板減少、ギランバレー症候群、蜂巣炎様反応など
- 副反応が発生した場合は、ワクチンの安全性の評価・管理のため、専門機関へ情報提供する場合があります。ただし、個人を特定する情報として外部に公表することはありません。

5 接種後の注意点

- ・接種後30分間は、急な副反応が起こる可能性がありますので、なるべく安静にし、医療機関にすぐ連絡が取れるようにしてください。
- ・接種当日は激しい運動を避けてください。
- ・接種した部位の異常反応や体調の変化があった場合は、速やかに受診してください。

6 予防接種後健康被害救済制度

定期予防接種の副反応により健康被害が生じた場合、その健康被害が接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定したときは、給付が行われます。相談・申請窓口は市医療保健課です。

備考

- ・接種に際し収集した個人情報とは市と医療機関で共有する他、診療の参考にする場合があります。
- ・対象者拡大（65・70・75…100歳）の経過措置は令和5年度で終了しました。以後、66歳以上の人が接種を希望する場合は、任意接種として全額自己負担（約8,000円）での接種となります。